

景気動向と個人デフォルトの関係 -階層ベイズ・パネル・プロビット・モデルによる検証-

株式会社三菱総合研究所 奥村 拓史

神戸大学大学院経済学研究科 松林 洋一

企業のデフォルトと銀行危機の相関は極めて強いが、個人（家計）のデフォルトと金融危機の関係は先進国でも時系列データが揃っていないことから、研究がなされていない (Reinhart and Rogoff (2008))。

個人のデフォルトは、その時点の債務者属性やローン属性だけでなく、シーズニング効果やマクロ経済の影響を受けていると考えられる。景気とデフォルトの分析は、近年、日本においてもいくつか先行研究があるが、それは全国の景気変動と企業のデフォルトの分析にとどまっている。

景気には全国の「平均的な景気」と地域独自の「局所的な景気」の存在が明らかとなっている (奥村・谷崎(2004))。また、銀行の貸出には地域特性に応じた個別性 (異質性) が確認されている (奥村・各務(2012))。以上から、デフォルトに景気動向が影響しているとすると、それは全国の「平均的な景気」よりも、地域の「局所的な景気」が影響している可能性が高い。

本稿の目的は地域に着目し、景気と個人のデフォルトの関係を明らかにすることにある。本分析では、株式会社三菱総合研究所の「住宅ローン 信用リスク データ・ンソーシアム」のデータをパネル・データに展開し、個人のデフォルトと全国および地域の景気との因果関係を、階層ベイズ・パネル・プロビット・モデル (Hierarchical Bayes Panel Probit Model) により経済学的に分析した。デフォルト分析の問題はデフォルトサンプルの少なさにある。階層ベイズモデルは地域間で共通する情報を事前確率密度関数として活用することで、小サンプルでも安定した推定値を得ることができることに特徴がある。

本研究により、以下のことが分かった。

- (i) 階層ベイズは少ないデフォルトサンプルでも安定した推定値を得ることができ、パネル・データにも有効である。
- (ii) 個人のデフォルトには非システムティック要因の他にシステムティック要因、すなわち、景気変動も影響している。
- (iii) デフォルトには、おおむねその地域の景気総合指標である CI 成長率(-1)と全国失業率が有効である。
- (iv) 東海・近畿地域と甲信越地域は、その他地域とは景気指標の影響が異なり、独自のデフォルトと景気の関係が存在する。

以上の様に、個人のデフォルトは地域の景気の影響を受けていることが明らかとなった。